

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 田原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

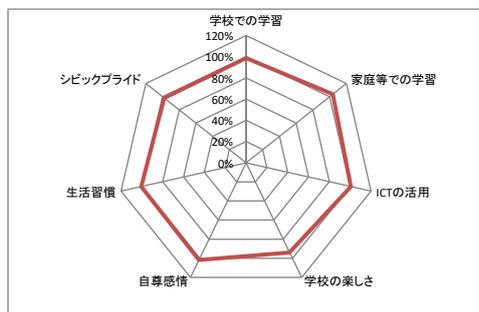
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「思考力・判断力・表現力等」のうち「読むこと」の正答率が上回っている。 ・「知識及び技能」のうち「情報の扱い方に関する事項」の正答率がやや下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・入物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする。 ・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。	
	努力が必要な問題	・資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫する。 ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・「数と計算」領域の正答率が上回っている。 ・「変化と関係」領域の正答率が上回っている。 ・記述式の問題の正答率が上回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・成り立つ性質を活用して計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する。 ・直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解する。	
	努力が必要な問題	・簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、分類整理する。 ・情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
・	家庭等での学習に関する項目について、肯定的な回答をした児童の割合が高い。
・	「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」等、自尊感情に関する項目に関して肯定的な回答をした児童の割合が高い。
・	「学校に行くのが楽しい」と回答した児童の割合が低かった。学校の楽しさの根底となる「わかる授業づくり」を行う必要がある。
・	「自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答した児童の割合が低かった。よりよい言語活動を行っていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科では、複数の図表やグラフと文章を関係付け、根拠を示したり話の組み立てを工夫したりしながら表現する活動を取り入れる。算数科でも、必要なデータを取り出して整理・分析し、判断ができるようにする。また、これらの学びを生かし、総合的な学習の時間で探究的な学習活動を仕組んでいくようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

主体的・対話的な学習や個別最適な学びに努め、「わかった」「おもしろい」「もっと調べたい」と思える授業になるように努める。児童一人一人が力を発揮できる場を設定し、よさやがんばりを直接伝えるようにする。また、心の健康観察やアンケート調査を活用して児童の悩みについて早期発見に努めるとともに、家庭と連携しながら解決していくようにする。